

業務実施方針及び業務実施体制

藤本壮介(株式会社藤本壮介建築設計事務所 代表取締役)を総括責任者とし、意匠、構造、設備、外構、積算の協力事務所で設計チームを形成し、災害から東部地区の住民や地域を守る地域防災センターを目指します。自然豊かな田園風景の広がる熊野町の風景と調和しつつ、地域コミュニティ活用の場として、多世代が交流し、共に支え合う意識、体制作りを生む施設を目指します。

設計チームの特徴

●徹底したコスト及びスケジュール管理

我々は現在、東北地方で約13,000㎡の複合文化施設の監理業務を行っています。設計段階からスケジュール及び、コスト管理を徹底して行い、入札も不備なく落札され、現在建設中です。

●コミュニケーションの重視

市民の方とのワークショップ、発注者との定例会議を開催し、十分なコミュニケーションをとり、設計に反映してきました。建設中の現在も、建設検討の意見交換を積極的に行っています。

本設計業務の遂行にあたって、様々な方とコミュニケーションをとりながら意見を交わし、知識と経験を活かして、この土地に相応しい施設を設計します。

●市民の方を守る構造・設備設計

国際的に信頼があり、実績豊富な構造・設備会社と協力し、安全かつ安心な施設を第一に取り組みます。設備面では、災害に強い防災設備を計画することはもちろんのこと、自然エネルギーを積極的に活用したサステナブルでエコロジカルな施設を計画します。

構造面では、シンプルかつ合理的な構造計画とすることで、実現性の高いコスト削減を図ります。

●豊富な実績をもつ積算事務所とコストマネジメント

日本国内に多くの支社を持ち、広島県にも支社をもつ、積算事務所協力のもと、しっかりとしたコストマネジメントを行います。

●災害に強く、美しい風景を作るランドスケープ

敷地全体の造成計画、植栽等の外構計画についても、ランドスケープアーキテクトと共同し、美しい熊野町の風景を作ります。また、様々なイベントや災害にも対応できる外構計画を目指します。

重視する設計上の配慮事項

業務取り組み体制に加え、特に配慮すべき事項を4項目挙げます。

1. 熊野町の新しい拠点づくり

熊野町の文化や歴史を丁寧に読み解き、災害に強い施設を設計することはもちろん、皆様に親しみをもってもらい、日常的な活動の場として新しい拠点を設計します。

2. コミュニケーションの徹底

必要に応じて現地に常駐スタッフを置くほか、施設の利用者、発注者との間に十分な意思の疎通と合意の形成を図るため、設計期間中は数回のワークショップを実施し、工事期間中も建設検討の意見交換会を行っていきたく思います。

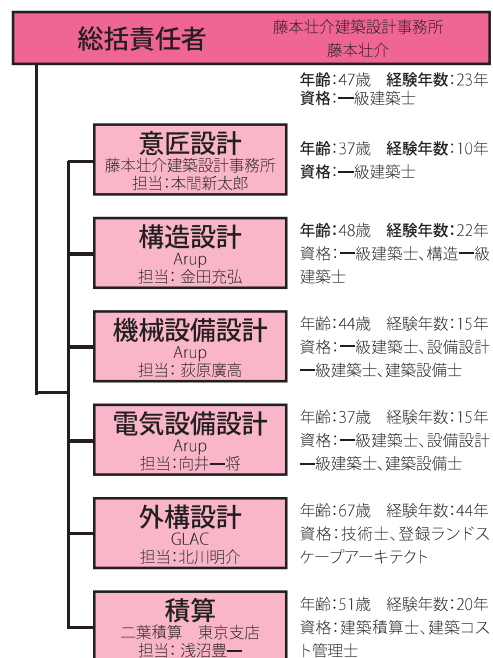
3. 現地の特色や地域の良さを反映

こんな施設にしたい、もっとこうして欲しいなど、地域の新しい発展について様々な意見をお聞かせ下さい。また、熊野町のこんな所が良い、こんな特徴があるなど、一人一人が感じる地域の良さを聞かせください。設計者として皆様のご意見を集約するように心がけます。

4. コストコントロール

コストへの配慮を欠かさず設計を進めて参ります。設計中間期に概算見積りをとることで、出戻りがなく、予算内に収まるように配慮します。

取組体制表



業務工程表

業務名	2019年												2020年												2021年								
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月					
1 設計条件確認	◀設計条件確認(1ヶ月)																																
2 基本設計期間	◀基本設計期間(2ヶ月)																																
3 概算見積り	◀概算見積り(0.5ヶ月)																																
4 基本設計調整期間	◀基本設計調整期間(0.5ヶ月)																																
5 実施(詳細)設計期間	◀実施(詳細)設計期間(1.5ヶ月)																																
6 実施設計概算見積り(1ヶ月)	◀実施設計概算見積り(1ヶ月)																																
7 実施設計調整	◀実施設計調整(0.5ヶ月)																																
8 概算見積り	◀実施設計概算見積り(1ヶ月)																																
9 設計図書作成期間	◀実施設計図書作成(2ヶ月)																																
10 ワークショップ	第1回WS 第2回WS 第3回WS												WS最終報告												◀設計期間中に4回のWSを実施								
11 基礎工事													◀基礎工事(3ヶ月)																				
12 1F躯体工事													◀1F躯体工事(2ヶ月)																				
13 2F躯体工事													◀2F躯体工事(1ヶ月)																				
14 1F仕上げ工事													◀1F仕上げ工事(3ヶ月)																				
15 2F仕上げ工事													◀2F仕上げ工事(3ヶ月)																				
16 設備工事													◀設備工事(5ヶ月)																				
17 外構工事													◀外構工事(2ヶ月)																				
18 検査													◀検査(1ヶ月)																				
19 オープン													◀オープン																				

実施設計の中間に概算見積りを行い、調整期間を設けることにより、最終段階で金額調整を行う必要のないスケジュールとなっています。概算見積りを基本設計段階から取り、調整を図りながら設計を進めることで予算内に収めることを意図しています。

ワークショップを行い町民の皆様の意見を伺います



機能ごとに分かれたテーブルで意見を出し合うワークショップの風景

出た意見を整理し、どのような意見が出たのかを纏める

●ワークショップの実施経緯

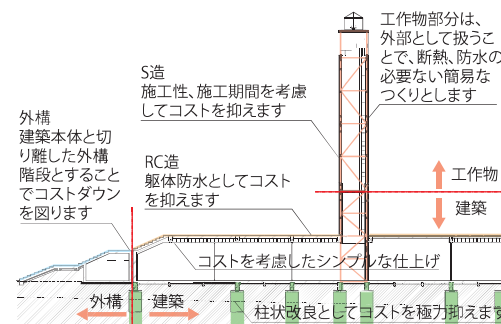
現在東北地方で建設中の複合文化施設(劇場、博物館、市民交流機能)では、設計段階で3回のワークショップを実施しました。大ホール、小ホール、博物館等、機能ごとにグループに分かれて頂き、座談会形式で市民の皆様のご意見を伺いました。劇場の使い方、展示壁の仕様、ロビーにキッチンを設置、外部イベント盤の設置など、多くのご意見が建物に反映されています。ワークショップをきっかけに市民主体の勉強会が発足し、現在の建設期間中も活発な議論が行われており、発注者了解のもと設計者の立場として、市民勉強会に参加し今後の施設の使われ方について意見交換を行っています。

●ワークショップの実施方針

9ヶ月の設計期間中に4回のワークショップを実施し、町民の皆様と意見交換しながら設計を進めます。ワークショップは2時間程度を想定し、①検討報告(30分)で設計者より設計報告の説明。前回ワークショップの報告。②グループ座談会(45分)でグループに分かれて座談会を実施し、各テーブルにファシリテーター(司会)、トラッカー(書記)を配置して進行。最後に各テーブルで意見を纏めます。③発表(各グループ5分~10分)でグループごとに座談会の内容を発表。④総評ワークショップ全体の総評を発注者、設計者からコメントし、今後の設計へ反映していきたく考えています。

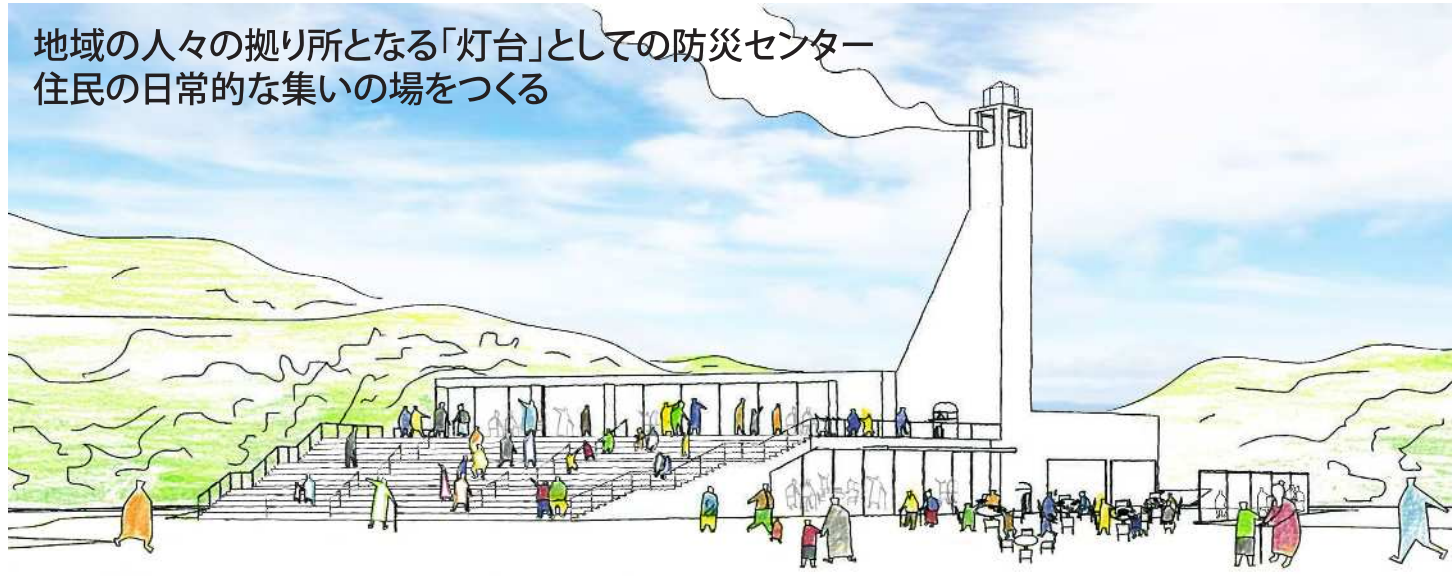
コストに配慮した建築計画

- 建物の特徴に応じた最適な構造システムを採用することで合理的かつ経済的設計を目指します。
- 大階段部分は外構工事として建物本体とは切り離し、造成工事と合わせて作ることでコストダウンを図ります。
- 建物本体の基礎は、柱状改良によって基礎にかかるコストを極力抑える計画となっています。
- 2階テラスは躯体防水とすることで、防水性能は担保しつつも、仕上げ及び押さえコンクリートをなくすことでコスト削減を図ります。
- 内部仕上げ外部仕上げもコストに影響の少ない極力シンプルなものを選定します。
- 塔の部分は工作物として設計し、簡易な作りとします。



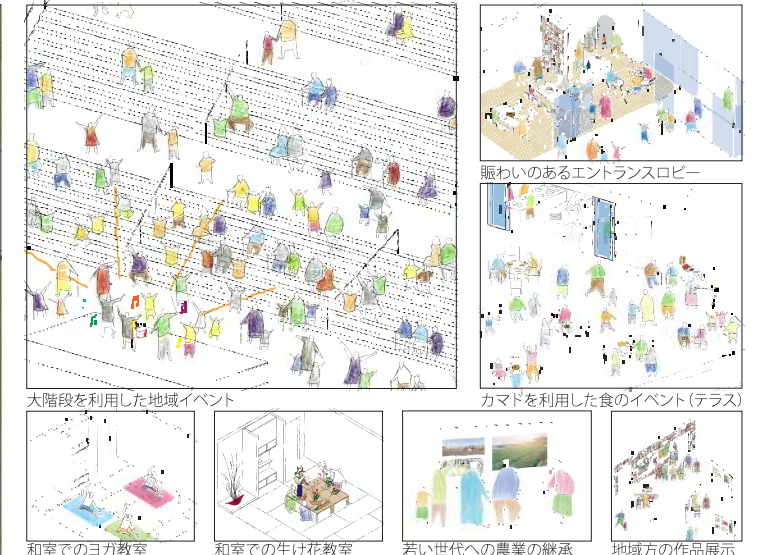
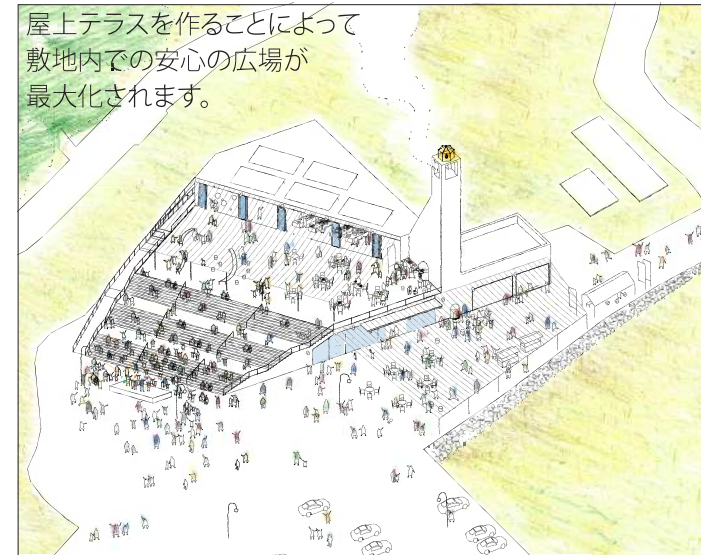
工事費割合	建築割合	工事費割合	建築割合
I. 直接工事費	363,960,000	381,509㎡	
(1) 建築工事	176,630,000	185,147㎡	39.30%
1. 仮設	66,440,000	6,751㎡	37.62%
(仮設計)	66,440,000	6,751㎡	3.65%
2. 土工	10,800,000	11,321㎡	6.11%
3. 地業	18,490,000	19,382㎡	10.47%
4. 躯体	54,080,000	56,688㎡	30.62%
(構造計)	83,370,000	87,390㎡	47.20%
5. 外部仕上	48,750,000	51,101㎡	27.60%
6. 内部仕上	38,070,000	39,906㎡	21.55%
(仕上計)	86,820,000	91,006㎡	49.15%
(2) 設備工事	114,480,000	120,000㎡	25.47%
(3) 外構工事	64,850,000	67,977㎡	14.43%
(4) 昇降機設備工事	8,000,000	8,386㎡	1.78%
II. 共通費	85,440,000	89,560㎡	
(1) 共通仮設費	4.2%	15,286,320	3.40%
(2) 諸経	18.5%	70,153,680	15.61%
III. 合計(工事価格)	449,400,000	471,069㎡	100.00%

地域の人々の拠り所となる「灯台」としての防災センター 住民の日常的な集いの場をつくる



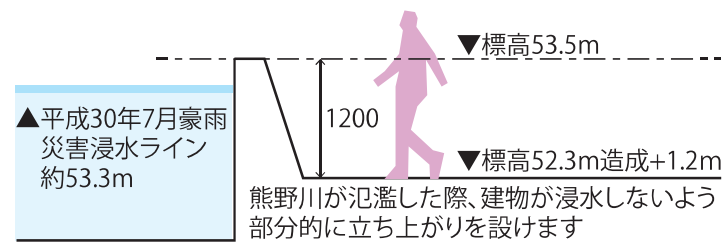
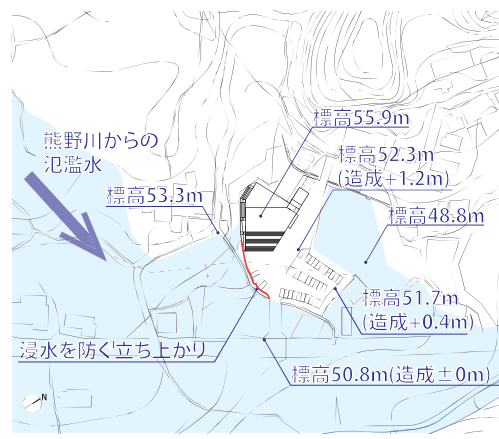
広場としての面積を最大化した防災センター

様々な活動や出会いの拠点



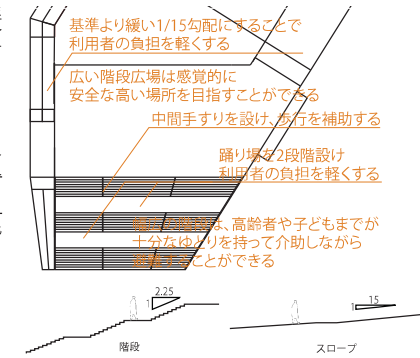
地盤の設定:十分な標高と周辺風景との調和

平成30年7月の豪雨災害では、標高53.3mまで冠水していることが写真から分かります。浸水エリアを考慮し配置計画を行いました。周辺の地盤高から最適な造成計画を行うことで、過剰な造成にならないよう配慮します。



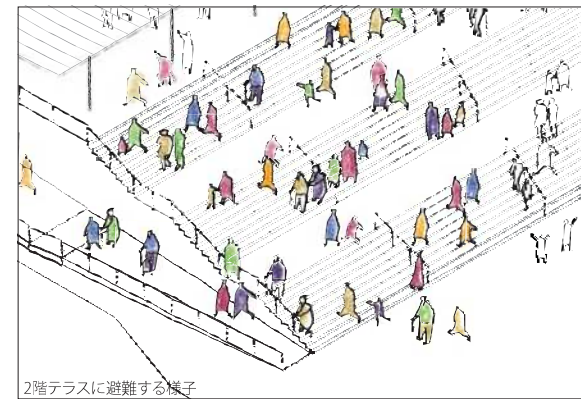
避難時も安心なバリアフリー対策

大階段の蹴上・踏面は緩い勾配とし、踊り場を2箇所設けています。幅の広い階段のため、中間手摺を設けており、複数の人達で十分なゆとりを持って介助しながら階段を昇っていけるようになっています。



コミュニティ形成が生む避難活動

大階段は子供からお年寄り、子供連れの家族まで、様々な人々が介助しながら昇ることが可能です。



半屋外空間の活用

簡易なテントを張ることで半屋外空間でのイベントを行うことが可能です。



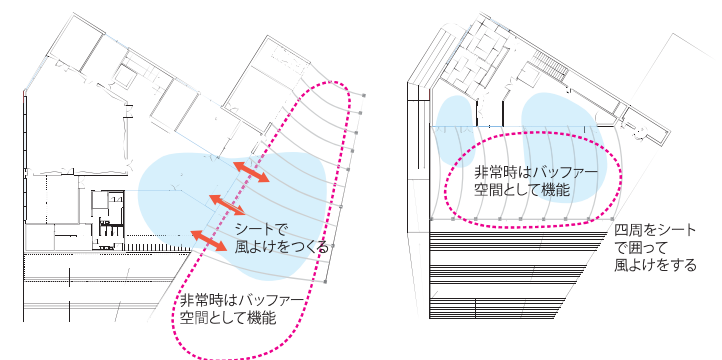
カマドが作るコミュニティ

カマドを利用した食の催しや、火を囲んでの談笑など、非常時以外も多様な使われ方が可能です。



室内外を通して利用できるバッファ空間

仮設のテント地の屋根を設置することで、半屋外のバッファ空間となります。日常的にはイベント利用、非常時には救援物資の仕分けの場として利用できます。



避難の目印としての灯台:見えるという安心

灯台は非常時の目印として、避難の方向を示します。日々、目にする事で非常時には迅速な避難につながります。



東部地区の施設を継承する防災センター

